



昨年度まで教頭を3年間務めさせていただき、学校だよりには「教頭のつぶやき」を無理やり書かせていただきました。今年から校長に就任させていただき「校長室だより」としてつぶやくことができることをうれしく思っています。

さて、新学期が始まって1ヶ月が経とうとしています。1年生もだんだんと小学校生活に慣れ、教室ではひらがなや数字の学習に取り組んでいます。他の学年でも新しいクラスになり、不安を抱えながらも少しずつ新しい環境になれていっているように感じています。

「意味ないやん」と言われてしまい・・・

校長室チャレンジを今年もスタートしています。長休みと昼休みに教科書や毎月配っている「今月の詩」などを暗唱して、校長室で唱えます。何度か間違えてしまうと合格しませんが、しっかり練習してきている人は一発合格しています。今日現在で80名を超える人が合格しています。

先週の話。2年生のある子どもが校長室を訪ねてきて「景品の折り紙はありますか」と言ってきました。その子が合格する少し前に地域の中村さんから寄付していただいた折り紙を景品にしていた時期があり、このことを聞いて景品欲しさにチャレンジしたそうです。「もうないです」というと「それやったら暗唱した意味ないやん」とつぶやきました。

意味はあると思うよ。暗唱を覚えること自体が自分を鍛えることになるからね。と伝えました。景品はあくまできっかけであって、覚えきったことへの喜びや満足感を味わってほしいと思っています。そんな感覚をその子が持っていてくれたらうれしいなと思います。

子どもが頑張れることを見極める

私の娘たちの話。保育園の方針で「紙おむつをはかない」子育てをしてきました。ですから幼児期には毎日「おねしょ」をします。毎日シーツを洗濯し、布団を干してから職場に向かっていました。これは「おねしょは自身でコントロールしようがないから」だそうです。だから「おねしょ、しないようにしなさい」「がまんしなさい」など言ったことはありません。子どもたち自身ではどうしようもないことだからです。長女は小らの臨海前までおねしょが続きました。

中学生になった娘たちと昔話をしているときに「じつはおしっこしたいと気づいていたけど起きるのがめんどくさかったからふとんでしていた！」と告白されました。「おいおい」「父ちゃんの働きを返してくれ」とその場ではつつこみましたが、「コントロールできるようになっていたんだ」と思い直しました。

子どもに何をがんばらせて、何をがんばらせないのか、私たち教員の専門性が問われるところです。日々、子どもたちと接しながら、声を聴きながら何をがんばらせるかを考えていかななくてはならないと思っています。